令和6年度 大田区立大森第四中学校 自己評価 報告書

令和7年3月4日

○ 本校の概要

池上本門寺や本門寺公園に隣接し、区内屈指の緑豊かな自然に囲まれた学校である。ほぼ毎年野生のタヌキが現れ、子育てをしている。生徒や教職員、地域の方々もそれをほほえましく見守っている学校である。
令和6年度は、第1学年5学級、第2学年4学級・3学年5学級の14学級、約511名の生徒が在籍し、教育目標は「恵まれた環境を生かし、『自主的で、品の良い、健康的な、努力を惜しまない生徒』を育てる。」を掲げている。村上昭夫校長が着任して3年目となる。「学校には、感動がある！」「いじめは絶対に許さない。」「相談しようよ！」のスローガンを全校朝礼や行事等の校長挨拶で生徒に示し、すべての教育活動をこれらの言葉に結び付けている。今年度より3つの「聞く力」（聞く・聴く・訊く）の育成に力を入れ、「思考力・判断力・表現力」の向上を図っている。
生徒が主体的に取り組み、熱意と力がこもった運動会と清陵祭・合唱コンクール等の学校行事は本校の伝統で、多くの保護者や地域の方が来校する。今年度学校運営協議会を設置し、コミュニティー・スクールとなった。PTAの応援体制が強力で、「地域学校協働本部（すけっと清陵）」と「親父の会」は、校内ペンキ塗りボランティアや地域清掃ボランティアを主催し、生徒がボランティア活動に参加し、地域と学校をつなぐ役割を担ってくれている。また、防災活動拠点訓練を池上特別出張所、市之倉北町会、堤方北町会、桐里梅田町会と共同で実施しており、そこに、本校第２学年生徒が授業の一環として参加している。防災を通して地域の一員として生徒が主体的に活動する育成の場となっている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	生徒アンケートにおいて「大森四中の先生は、授業を工夫して教えてくれる。」と回答した割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○STEM教育の基礎としてのあらゆる分野で興味・関心を高める活動の充実を図る。 ○清陵祭や運動会などを通して、生徒が主体的に行動し、自ら判断し実行する機会を増やす。 ○毎日の教科や授業で、生徒の発表や意見交換や登校などにchromebookを活用し、多くの他者の考えに触れさせる。 ○ICT機器の活用のための校内研修会を行う。	A B C D	5 1	・取り組み内容はいいと思う。 ・「予測困難な未来社会」が相手なのでこれで完璧という学習はありえないと思うが、古さと新しさを融合した学びの場を提供し続けてほしい。 ・職場体験等積極的な参加をはじめ、人の話をよく聞き、自分の意見を発する学習を行っている。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、授業をまじめに受け学習内容を身に付けている。」と回答した割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。 ○文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う学習を重視する。 ○すべての教育活動を通して、尊敬の念、思いやりの心を忘れず、人にやさしくでき、自分と考えの違う人とも理解し合い協働できる能力を育成する。 ○ユネスコスクールとしての使命を再確認し、SDGsの達成の視点を取り入れた学習を取り入れる	A B C D	5 1	・英語力が向上すると思うのでいいと感じる。 ・生成AIが発達している昨今、外国語を学ぶ意味も伝えられる教育になっていくとよいと思う。 ・英語教育について十分検討され、生徒が楽しく授業を受けている。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者対象アンケートにおいて「四中生の生活態度（登下校の様子を含む）は、良好である」と回答した割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○道徳の授業では考えることと話し合うことを重視し発問を工夫する。また、資料活用による充実を図るとともに、評価についての研修を行う。 ○SNSの使用や人権に関する学習では、生徒に深く考える機会を与える努力をする。 ○毎時の体育授業において補強運動の取組を行っている。生活習慣の確立については、保健給食部や生活指導部と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん月間」のアンケートにより実態を把握し、効果的な意識啓発を行っていく。 ○「食育」について、教職員が意識を高め、給食指導に限らず各教科等においても計画的に推進する。 ○小中一貫教育の会を通して、校区の学習・生活のスタンダードを確認し、児童が中学校の様子を知る機会を設定し、小中連携して指導にあたる。	A B C D	4 2	・常に向上を目指す姿勢が感じられる。 ・小中一貫教育の流れは、誰も取り残さない環境には必要だと思う。 ・食育は、大森第四中学校の魅力だと思う。 ・道徳授業等、生徒に考える習慣が身につく工夫をしている。また、食の重要性等、生活習慣についても積極的に取り組んでいる。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者対象アンケートにおいて「授業はわかりやすく、よく理解できる。」と回答した割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	◯ICT機器を活用した新たな教材や学習活動等を取り入れ「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に効果を上げるために校内研修会を行う。 ○校内で研究授業を行い、また、外部講師を招いた研修会を行い授業力の向上を図る。 ○校内で相互の授業見学を活発に行い、OJTを充実させる。 ○研究会・研修会に計画的な参加を推奨し、その成果を授業改善に生かす。 ○分かりやすい授業、興味・関心を高める授業を目指し、ICT機器を活用した授業を展開する。	A B C D	4 2	・指導力の向上につながり、いいと思う。 ・勤務時間が長くなりがちな教育という仕事ですが、それでもプライベートの時間を作って「教師力向上」に務めている方を何人も知っている。社会人でも勤務時間外にスキルアップのために学び続ける人も大勢いる。そういう活動を推奨する仕組みができるといい。 ・ICT機器活用を積極的に行い、授業が楽しくなるよう計画されている。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	生徒対象アンケートにおいて「学校の雰囲気は明るく、毎日、学校に行くのが楽しい」と回答	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○「共生社会」の実現のため、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、多様なあり方を認め合う学びの場を設ける。 ○特別支援教育について、担任と校内委員会が連携し、組織的に推進する。 ○WEB QUやメンタルヘルスチェックの結果を基に、SCとも連携し、組織的に生徒に対して組織的に対応する。 ○問題行動・不登校問題等について行われた会議の内容は、知るべき教職員が必要な情報を確実に共有できるように努める。 ○人権尊重を基盤に「学校には、感動がある」「いじめは許さない」「相談しようよ」をキーワードとし、生徒・保護者や地域の信頼に応えるように教育活動を進めていく。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図り、教員の外部との連携意識を高める。	A B C D	5	・困難な児童生徒への個々の取組がいいと思う。 ・学校長の強いメッセージは生徒たちに響いていると思う。 ・生徒が相談しやすい環境とスクールカウンセラー等との連携を密に対応している。また、いじめは許さないを基本にみんなで共有している。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者対象アンケートにおいて「学校は、環境美化に積極的に取り組んでいる。」と回答した割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○生徒が安心して、落ち着いて学校生活を送るために老朽化に対して修繕しつつ、全職員で環境美化に対する意識を高める。 ○教職員が同一歩調で指導にあたることができるように、実際の指導の経過・結果を十分に共有し、教員各自の生活指導に反映させる。 ○生活指導部を中心に、全校朝礼や学年・学級指導において安全指導を行い、生徒の安全に対する意識を高め、身を守る知識・技能を身に付けさせる。	A B C D	4 2	・指導力の向上につながり、教育環境はいいと思う。 ・すぐ緩むのが中学生の特徴でもあるので、引き続き「やる気」になる動機づけを続けていただきたいと思う。
		③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者対象アンケートにおいて「学校は、学校行事などに地域の協力を得ている。」と回答した割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○学校運営協議会において、校内見学や授業参観を実施し生徒の学習活動の様子を直接見ていただいた感想や意見を教員の授業力の向上につなげる。 ○外部人材の招聘や校外の体験学習について、学校支援地域本部の力をかり、生徒に様々な経験を積ませる機会を作っていく。その際、保護者に情報提供を行っていく。 ○「おおたこどもポスター」を保護者に周知し、地域と一体となって教育活動を進められるように推進していく。	A B C D	3 3	・今年度から学校運営協議会が始まり、地域とのつながりがさらに深まったと思います。 ・運営協議会等での情報交換等がいいと思う。 ・地域との連携はまだまだ足りないと思う。コミュニティー・スクールを上手に使って拡大していけるといい。 ・校内見学や地域との連携をより強めていけたらいい。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2							
特色ある取組	地域とのつながりを大切にする機会をつくります。	防災教育の充実を進め、生徒の理解を深めることによって避難所と避難場所の運営に貢献できる態度を養う。	4:全学級で働きかけた。 3:80%以上の学級で働きかけた。 2:60%以上の学級で働きかけた。 1:働きかけた学級は60%未満であった。	4	＊生徒・保護者を対象としたアンケート調査を実施し、地域とのつながりに関する回答結果の状況で判断する。	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	◯校内や地域の活動、地域のイベントに積極的に参加できるようにする。 ◯避難所運営訓練に2学年の生徒が参加し、防災意識を高めるとともに地域に貢献する態度を養う。			・継続していきたい行事である。 ・2年生以外にも広げられるといい。 ・防災教育において積極的に地域との連携を図っている。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の４点について、評価した人数を記載する。